

「旅の図書館」紹介

旅の図書館（観光文化資料館）は（財）日本交通公社が公益事業の一環として観光文化の振興を願い、78年に開設した専門図書館。07年10月に29周年を迎えた。02年4月からは専門図書館協議会に加盟し活動の幅を広げている。

利用者	<p>利用者の推移は図の通り。開館当初は年間6,000人弱であったが、その後毎年増加し、95年度には約3,700人までになった。当時は第一鉄鋼ビル1階にあり、通りがかりの入館者も多く、夏休み時期には書架の間に座り込んで読んでいる利用者も多かった。手狭になったこと、書架がゆがんできたことから96年9月第二鉄鋼ビル地下1階に移転、さらに00年6月にスペースを広げリニューアルオープンし、今に至っている。地下に移転してからは、通り過ぎりの利用者の減少やインターネットの普及等もあり、年間平均21,000人（1日平均85人）の利用となっている。</p> <p>利用者の半数が会社員で、学生、自営業（フリー含む）と続いている。男性65%、女性35%の比率は開館当初からほとんど変わっていないが、60・70代の利用が男女とも増えてきている。</p>
蔵書	<p>開館時は約4,000冊の図書で開館した。主に豪華写真集を中心とし新聞も置き、2つの大机に12の椅子を配置。1台は喫煙席で、ゆったりとくつろぎながら旅の雰囲気味わってもらおう……というコンセプトだった。蔵書の増加に伴い「旅行気分」よりもっと具体的に「旅行の下調べ」に必要な図書に対する要望が高まり、日本各地・世界各国の旅行・観光に関する資料・情報を収集。ガイドブック、地図、時刻表、紀行文、写真集、旅行雑誌のほか、市町村や政府観光局発行のパンフレットなどが県別・国別に配架され、目的の資料を自由に手に取って見ることができる現在の形になった。</p> <p>現在図書は30,000冊（和書27,000冊、洋書3,000冊）、その中で「利用図書ベスト100」の7割は海外に関する日本語版ガイドブックとなっている。さらに最近洋書のガイドブックに対しての要望も増えており、バックパッカーに人気のガイドブック『ロンリー・プラネット』のガイドはシリーズ約300冊をそろえている。日本語版も刊行され、併せて利用されている。またレストランの格付け（3つ星等）で有名な『ミシュラン・レッド・ガイド』も、シリーズは常に最新刊をそろえるようにしている。</p>
雑誌	<p>旅行関連雑誌は約150種類。その中で当館だけと自負しているのは、日本に乗り入れている国際線航空会社約40社の「機内誌」。各航空会社の特色がよく出ており、出発便によってどんな機内販売があるか、どんな映画が上映されているかなどチェックしている賢い利用者も多い。</p> <p>最近ブームとなっている世界遺産については、今まで「世界」のコーナーの一部に置いていたが、出版点数、利用頻度が増えたため「世界遺産」コーナーを新たに設けた。</p> <p>利用頻度の高い時刻表は、戦前・戦中版は『復刻版時刻表』しかないが、07年5月に当館の利用者から『JTB時刻表』バックナンバーの寄贈を受け、74年からはほぼ毎号そろっている。時刻表は単なる時刻の変遷だけでなく、航空、定期観光バス、宿泊施設等も掲載されており、作家が作品の裏付け資料として使用したり、学生が論文の資料として調べている。</p> <p>また、07年10月の財団ホームページのリニューアルに伴い、雑誌特集記事検索もできるようになった。</p>

住 所：東京都千代田区丸の内 1-8-2
 第二鉄鋼ビル地下1階
 電 話：03-3214-6051
 開 館：月～金曜日 10時～17時30分
 休 館：土・日曜・祝日・年末年始
 交 通：JR 東京駅八重洲北口から徒歩2分

資 料

国・県別のインデックス代わりに名前入りのボックスの中には、パンフレット、地図、新聞のクリッピングを入れている。特に新聞のクリッピングは過去7年保存しているが、情報の少ない地域もカバーしているので評判も良く、よく利用されている。

観光関連資料としては、(財)日本交通公社が発行している機関誌、調査統計、調査報告書(一部)のほか、ツーリズム産業関連の資料も収集している。大学の紀要、学会の論文集、業界の機関誌バックナンバー、観光関係会社社史なども閲覧でき、研究者のほか、学生が卒業論文・就職活動の情報収集にと活用している。

デジタル 画 像

当館は基本的には新刊図書が中心であるが、JTB発行の月刊誌『旅』は24年創刊で昭和の旅行形態を知る貴重な資料である。当館では33年から所蔵しているが、傷みが激しく原本閲覧できない状態となっていたため、『旅』(24年～74年)ならびに『ツーリスト』(13年創刊～43年最終号)をデジタル化。関係各所のご協力を仰ぎ、創刊号から欠本・欠頁がないようそろえた。著作権を有する資料であるため、画像は館内閲覧のみであるが、07年10月から目次をホームページ上に公開、検索可能にしている。そのため、論文作成の学生のみならず、日本文化を研究している外国の研究者などの利用が増えてきている。

- 当館のホームページでは、利用時間、利用方法、所在地の交通案内、新着図書案内のほか、蔵書検索・雑誌検索ができますのでご利用ください。

ホームページ：<http://www.jtb.or.jp/library/>

